

京大植物園の 存続求め署名

考える会提出

80年の歴史を持つ京都大理学部付属植物園(左京区)を利用する研究者や市民らでつくる「京大植物園を考える会」が7日、植物園の存続や、生態系の維持などを求める署名を京大学長と理学部長あてに提出した。

昨年未、落ち葉対策などとしてヌマスギなどの大木を大学側が伐採。生態系破壊などを懸念した研究者らが「考える会」を設立し、1900人余りの署名が集まっている。考える会メンバーの石田紀郎・市民環境研究所代表(元京大教授)は「邪魔な木は切れとの発想では、法人化の中で『金にものならない植物園は不必要』となりかねない。研究場所として、都市の中の貴重な緑として、重要

性を認識してほしい」と話す。
【野上哲】